

第1学年 国語科学習指導案

平成21年10月28日(水) 第5校時

指導者 植月 三知恵

- 1 単元名 しぜんのふしぎ
教材名 「まめ」 学校図書 1年下
「きかせてしていること」 学校図書 1年下

2 単元の目標

豆について進んで調べたり、分かったことなどを順序よくまとめたりしようとする。

(関心・意欲・態度)

知っていることの中から知らせたいことを選び、相手に分かるように順序よく話したり、大事なことを落とさないように興味を持って聞いたりすることができる。(聞く・話す)

知っていることや聞いていることを、絵と文で書くことができる。(書く)

文章を正しく音読し、順序を考えながら、生長の過程の大体を読み取ることができる。(読む)

姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で読んだり話したりすることができる。(言語事項)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、まず、「まめ」で、写真や実物と対応させ、順序を考えながら豆の生長を読み取り、課題に沿って、分かったことを中心にまとめていく。さらに「きかせてしていること」で、草花や野菜の生長について知っていることをもとに、生長図鑑を作って話し合うという構成になっている。

本学習材は、敬体の文章で書かれていて、一文一文が短いため、比較的読みやすい文章である。また、話題提示の文、豆の生長を具体的に説明している文、まとめの文がはっきりと区別されており、内容をとらえやすく、説明文としても分かりやすい。この時期、子どもたちは、身の回りの草花や生き物の季節の変化に大変興味を持っている。さらに各自が一鉢のあさがおを育て種を取るといった経験も経ている。こうした時期に本単元を学習することで、植物に対する視野を一層広げるとともに、命あるものの普遍的な営みに対して、認識を深めることになると思われる。

さらに、「きかせてしていること」の「話す・聞く」の言語活動では、説明文の読み取りで高めた自然界への興味関心をもとに、知りたい情報を集めて順序よく話す活動へと発展させたいと思う。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子10名女子2名計12名である。ひらがなの読み書きを学習した後、ひとまとまりの文章を音読することもできるようになってきた。前期「いきものあし」の説明文では、問い・答えという話の展開が分かり、予想しながら楽しく読み、動物の足がそれぞれの生活様式に適していることを読み取っていった。また、文は、「さし出し」「のべ」の部分でできていること、文には4つの基本の形があることを学習し、簡単な文作りもでき始めている。

(3) 指導観について

本単元を指導するにあたり、導入では実際にいろいろな種類の豆を紹介したり、豆について知っていることを発表したりする活動を通して、興味を持って学習に取り組めるようにする。本文の読み取りでは、写真や実物と対応させることで、順序を考えながら、生長の過程を読み取らせたい。また、書かれている言葉と事実を対応させながら、段落相互の関係を理解させる。説明文の読みの学習が終わり、説明文の形式をある程度理解した後、自分の本を作り友だちと伝え合うことにより、知識が増え自然や身の回りの事象への関心も深まるのではないかと期待している。

(4) 研究テーマとの関わりについて

本校では、小中一貫教育のテーマ「小中学校の連携による生きる力を持った子どもの育成」をあげている。「学力向上」を重点課題とし、わかる授業づくりをめざして取り組んでいるところである。

国語科の授業では、説明的な文章を中心に児童の読解力を高めるための授業作りを研究している。低学年では、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図っている。教科書をしっかり読み、見通しを持って授業に臨む習慣と学習規律を整え学習意欲を持ち続けていく子どもをしっかりと育てていきたい。本教材では、「豆の生長」を写真や効果的な直観教材を用意することにより、主体的に読む力をつけていきたい。

4 指導計画(全19時間)

第一次 「まめ」を読もう・・・11時間

第1時 発表会について知り、学習の見通しをもつ。

第2時 題名から内容を想像し発表し合う。

第3～6時 文章の順序を確かめながら読む。(豆の生長1)

第7～9時 文章の順序を確かめながら読む。(豆の生長2)・・・第7時(本時)

第二次 「たね」の本を作り、発表し合う・・・8時間

第1～4時 育てた植物の本を作る。

第5～8時 できあがった本を発表したり、関心を持って聞いたりする。

5 本時案（第一次 第7時）

目 標	新しい豆が育つ様子を読み取ることができる。（読むこと）	
学習活動	教 師 の 支 援	評価規準・方法等
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>前時までの学習を振り返り、次の段落の読み取りに意欲を持たせる。</p> <p>板書（めあて）</p>	
<p>あたらしいめが どうなるかよみとろう。</p>		
<p>3 を読み、さやに包まれて育つとはどういうことか考える。</p>	<p>形式段落 を二人組で音読させ正しく読むことができるか確かめ合う。 主語と述語を確認する。 「育つ」という意味を考え、初めは小さな豆であることに気づかせる。 「さや」とは何か、写真と対応して理解させ、豆類にはほとんどさやがあることを知らせる。 「さやにつつまれてそだつ」とはどのようにして育つことなのか、具体的につかませる。</p>	
<p>4 を読み、豆がさやからどのようにして離れるのかを考える。</p>	<p>形式段落 を二人組で音読させ正しく読むことができるか確かめ合う。 主語と述語を確認する。 「さやからはなれる」とはどういうことなのか、具体的に考えさせる。 「みのる」という意味を考えさせる。 「じゅうぶんにみのる」とはどうなることか具体的に考えさせる。</p>	<p>「さやに包まれて育つ」と「さやからはなれる」様子を読み取ることができたか。（読むこと）</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>今日の勉強で分かったことを、ノートにまとめる。</p> <p>本時を振り返りながら、 を音読させる。</p>	<p>読み取ったことを考えながら音読できたか。（読むこと）</p>
<p>6 次時の学習を知る。</p>	<p>さやから離れた豆について学習していくことを知らせ、学習への意欲を持たせる。</p>	